

# 助けあう



**NHK 海外たすけあい | 12.1(Sat)~25(Tue)**

救うことを、つづける。 **+** 日本赤十字社

日本赤十字社は毎年12月1日~25日に、NHKと共催で募金キャンペーン「NHK海外たすけあい」を実施しています。お寄せいただいた寄付は、世界中の紛争、災害、病気で苦しむ人々の支援に役立てられます。募金のご協力をお願いします。

## 赤十字ならではの支援の特色

- ・世界の191の国と地域にある赤十字のネットワークを活用し、ニーズに即した**直接的**な支援ができます。
- ・日頃から地域に根ざして活動しているからこそ、いち早く**継続的**な支援ができます。
- ・中立の立場で活動しているからこそ、紛争地等国際社会の**支援が届きにくい地域**にも支援を届けられます。

例えば…マラウィ：南部アフリカ感染症対策事業



HIV孤児を含む貧困家庭の子どもを対象とした学童保育を実施しています。ほかの子供たちと同じように学校に通う機会を提供しています。活を続けています。

救うことを、つづける。

検索



←もっと情報を知りたい方は  
キャンペーン特設サイトをチェック

# ぴーなっつうしん

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲よし・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域のみなさんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

Vol.9  
2018.12



## ●特集

『世界糖尿病デー開催』 糖尿病の+αのおはなし

## \* EVENT REPORT

- \* 未来の医師誕生~第4回ブラック・ジャックセミナー開催~
- \* 2020年に向けたテロ対策

## 第4回ブラック・ジャックセミナー開催



今年で4回目となる「ブラック・ジャックセミナー」。地域の小学4～6年生を対象に開催され、今年は23名の未来の医師が誕生しました。

セミナーでは、“縫合体験”、“内視鏡トレーニング体験”、“注射体験”、“自動吻合器・縫合器体験”、“手術室超音波メス体験”、“救急法体験”の6つを体験していただきました。

赤十字病院ならではの救急法体験ブースでは、心肺蘇生法やAEDの使い方を救急法講師からレクチャーしていただきました。子供たちが必死に心肺蘇生を行っている、扉の外から救急車で駆け付けた救急隊が登場するという手の込んだサプライズに、思わず子供だけでなく保護者からも歓声が上がりました。普段なかなか近くで見ることのできない救急車に乗車したり、実際にストレッチャーを運んだり貴重な体験に子供たちも笑顔でした。



ブラック・ジャックといえば“手術”。このセミナーの一番の見どころで、実際に手術室で行われる手術室超音波メス体験では、子供が執刀医、外科の先生が助手となり鶏肉からの腫瘍摘出術を行っていただきました。手術室に入ると一気に緊張した顔の子供たちでしたが、術前の患者確認から手術終了まで一生懸命に行い、全員が無事手術を終わらせることが出来ました。



今セミナーでは「人の命」を救う医療の現場や実際の仕事を体験していただきました。このセミナーがきっかけとなり、将来一人でも多くのお子さんに病院で働く医師やコメディカルなどを目指してほしいと願っています。

## 2020年に向けたテロ対策合同訓練

2020年、世界中の人々を熱狂させるオリンピック・パラリンピックが日本で開催することはみなさんご存知ですよね？オリンピック・パラリンピックの開催控え、外国からの旅行客も多くなるなか、テロ災害や外国人観光客を含む多数傷病者事案の発生に備え、秦野市と合同でのテロ対策訓練が10月17日に開催されました。

当院からは救護班“HAMAT（通称ハマー）”（医師2名 看護師4名 薬剤師1名 主事6名）13名が参加し、県警、秦野消防、市役所、神奈川中央交通西の総勢106名が参加する大規模な訓練となりました。



訓練は、テロ災害や多数傷病者事案に対する脅威に万全の状態に備えるため、関係機関との連携体制を検証し、災害対応

力の向上を図ることを目的に実施されました。

オリンピック選手の練習場所と仮定した秦野市戸川の県立山岳スポーツセンター方面へ向かう路線バスが、何者かに乗っ取られたという想定で実施されました。秦野署員がバスを駐車場に誘導、“犯人”を制圧した後に、車内のペットボトルから有毒ガスが発生。防護服を着た消防隊員が、車内で倒れた乗客を搬送し洗浄後にトリアージを実施し、当院救護班に引き渡す流れで行われました。当院救護班は2次トリアージ、処置による安定化、後方搬送の依頼と調整を行う役割を担いました。

いつか起こりうる“いざ”という時に備え、今後も関係機関との訓練を重ね、連携体制の強化に努めます。



## 世界糖尿病デー

秦野赤十字病院では、11月14日の世界糖尿病デーに合わせ、11月13日～16日まで4日間1階ロビーでイベントを開催しました。

世界各地で行われている「世界糖尿病デー」。みなさんご存知ですか？

糖尿病予防・治療・療養を注意喚起することを目的に国際糖尿病連合（IDF）と世界保健機関（WHO）によって1991年に開始され、2006年には国連の公式日となりました。また、11月14日は、1922年にチャールズ ベストとともに、糖尿病治療で用いられる“インスリン”を発見したカナダ人医師のフレデリック バンティングの誕生日にあたります。



このような歴史を持つ「世界糖尿病デー」。当院もこの啓発活動に賛同し、地域のみなさんの健康を守り、多くの人に糖尿病について理解してもらえるよう今年度もイベントを開催しました。今年度は、ポスター展示だけでなく、世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」をイメージした飾りを、1階正面玄関から受付やロビーの壁などに飾りつけを施しました。さらに夜間には、病院の救急外来入口通路の照明をブルーにライトアップし啓発活動に努めました。

イベント開催期間中の11月13日には、昨年度に引き続き血糖測定や栄養相談を行うほか、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士の多職種が立ち寄っていただいた方の質問や相談にお答えしました。質問や相談の中には、「普段自分の血糖値がどのくらいなのか気になっていたけれど、測ってもらう機会がなかなかないので知りたかった」、「自分の血糖値は高いの?」、「今飲んでいる薬は強い薬ですか?」、「家族が糖尿病と言われて、どんなことに気を付けた食事をすれば良いのか知りたい」など様々なお話を伺いました。その他にも「血糖測定が出来て良かった」、「ジュースに含まれる砂糖量の展示に驚いたので今後気を付けようと思う」「専門職の人に話を聞くことが出来て安心した」などのお声をいただくことが出来ました。

ポスター展示では、「HbA1cをご存知ですか?～血糖値だけじゃない、糖尿病検査～」が今年度より追加展示されポリュームアップし多くの方が足を止め真剣な表情で読んでくださっていました。



今年度もたくさんの方が足を運んでくださり、関心を持っていただくことが出来ました。たくさんのご来院ありがとうございました。

## 糖尿病の + α のおはなし ～“HbA1c”ってなに?

糖尿検査でよく聞く「HbA1c」ってご存知ですか?「血糖値」と同じだと思われる方も多いのではないのでしょうか?そんな2つの検査の違いをおはなしします!

**【血糖値】** 採血した時点の血糖値を反映します。ただし、血糖値にも検査によっていろいろな種類があります。食事の影響を受けやすく、採血のタイミングによって値が変動します。

**空腹時血糖値:** 一般的に前日夜9時以降を絶食とし、翌日の朝食前に採血（食事から10時間以上あける）をして測定した血糖値

**随時血糖値:** 食事の時間に関係なく採血をして測定した血糖値

**75gOGTT2時間値:** 10時間以上絶食の後、75gのブドウ糖を経口摂取し、その2時間後に採血をして測定した血糖値

**【HbA1c】** 赤血球中のHb（ヘモグロビン）にグルコース（糖）が結合したものを「HbA1c」といい、長期間（約2ヶ月）の平均血糖値を反映します。

